「東京 2 位、京都 18 位、1 位ソウル　留学生に最適な都市ランキング」

英国の高等教育評価機関「クアクアレリ・シモンズ（QS：Quacquarelli Symonds)」は、世界の学生たちが快適な海外留学生活を送れる都市を順位づけした「QS ベスト・スチューデント・シティ 2026」を 8 月 19 日に公表した。東京が 2 位、京都が 18 位となっている。これまで 4 年連続で 1 位を維持していたロンドンが 3 位に落ち、前年 3 位だったソウルが 1 位に浮上した。QS を含め近年、公表されているさまざまな「世界大学ランキング」で目立つのがアジアの大学の高い評価。今回のランキングからは、大学だけでなく留学先としてのアジアの都市に対する評価も高まっている現状が見て取れる。

QS は、世界の大学の力量を評価したさまざまなランキングを毎年、公表している。その一つ「QS 世界大学ランキング」で順位づけされた大学が 2 校以上存在する人口 25 万人以上の都市が「QS ベスト・スチューデント・シティ」の評価対象だ。評価法は、QS 世界大学ランキングにランク付けされた大学の数と、それらの大学の実績をまず重視する。さらにより多くの学生を受け入れるための準備が整っているかを見るため、最新の「QS 世界大学ランキング」でランク付けされた大学の学生数がその都市の人口に占める比率や、学生総数に対する留学生の比率などが評価対象となる。授業料の額と生活費がどれだけかかるかも重要な評価項目だ。留学生に対する都市の寛容性と包摂性、多様性、親しみやすさ、移動のしやすさ、雇用機会なども QS が毎年実施している学生調査結果を基に評価している。住みやすさ指数や安全指数などいろいろな機関が公表している数値を用いて、都市の安全、大気汚染など環境から留学生が払う授業料が都市の財政の中で適切に活用されているかなどにも目を向けている。

都市の魅力度も高めたソウル

前年の 3 位から 1 位に浮上したソウルは、何がさらに評価を高めたか。「QS 世界大学ランキング 2026」38 位のソウル大学をはじめ、50 位の延世大学、61 位の高麗大学など 22 校が「QS ベスト・スチューデント・シティ 2026」に名を連ねている。これら市内大学の数、実績に対する評価はすでに前年の「QS ベスト・スチューデント・シティ 2025」でもランク付けされた全都市中最高だったが、今回も変わらない。世界で最も経済競争力の高い都市のひとつで、卒業生が成功するキャリアへのスムーズな移行を実現するに適した都市という評価もすでに前年に得ているが、今回も同様だ。さらに、安全性や大気汚染レベルなどから評価した都市の魅力度では、前回、上位にあったロンドンを追い抜いた。

雇用機会、留学費用評価高い東京

2 位を維持した東京はどうか。「QS 世界大学ランキング 2026」にランク付けされた大学は、

36 位の東京大学をはじめ 85 位の東京工業大学、196 位の早稲田大学、215 位の慶応義塾大学、553 位の一橋大学、697 位の東京医科歯科大学など 15 校。前年より 3 校減り、これら所在する大学に対する評価は前年の「QS ベスト・スチューデント・シティ 2025」同様、ソウル、ロンドンを下回る。しかし、雇用機会（都市の若者の雇用状況と、都市内大学卒業生に対する雇用主の評価）については前年の同ランキング同様、全都市中最高の評価を得ている。さらに授業料や生活費という留学生活に要する費用についての評価も高め、ソウル、ロンドンとの差をさらに広げている。（編集者注：東京工業大学と東京医科歯科大学は 2024 年 10 月に統合し、東京科学大学となった）

留学生活費用高いロンドン

4 年続いていた 1 位から 3 位に低下したロンドンは､英国で最も多くの大学がある都市で、「QS 世界大学ランキング 2026」２位のインペリアル・カレッジ・ロンドン、9 位ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンをはじめ、今回の「QS ベスト・スチューデント・シティ 2026」でランク付けされた大学数も 26、このうち上位 50 位内の大学は 4 校、といずれの数字もソウル、東京を右回る。さらに自然史博物館、大英博物館など、世界有数の博物館（いずれも入場無料）があり、市内のほぼ半分が「緑地」に分類されている。住民の 36.7%が英国外の生まれということもあり、多くの地域で他文化に触れることができる。多くの国際企業がロンドンで採用活動を行っている。こうした魅力から「QS ベスト・スチューデント・シティ」ではこれまで 4 年連続で 1 位を維持していた。

今回、3 位に落ちた理由は何か。まず目を引くのはすでにソウル、東京に大きく見劣りしていた留学生活に要する費用で、さらにソウル、東京との差が開いたことだ。ランキング入りした 150 都市中、留学生活に要する費用に対する評価で東京は 58 位、ソウルは 68 位と世界の都市の中でそれほど優位にあるとは言えないものの、ロンドンは 137 位と大きく見劣る。それでも 3 位の評価を得たのは、都市の親しみやすさや持続可能性、多様性などについての留学生の評価や、実際に卒業後、都市内に住み続ける学生の割合を見た「留学生の意見」でロンドンは全都市中 2 番目の高い評価を得ており、東京（25 位）、ソウル（48 位）との差をさらに広げているのが大きい。さらにランク付けされた大学の学生がその都市の人口に占める割合、在籍する留学生の数、留学生に対する都市とその都市が所在する国の寛容性と包摂性を併せて評価した「学生構成」も 14 位と、ソウル 51 位、東京 70 位を引き続き大きく上回る。

「QS ベスト・スチューデント・シティ 2026」上位 50 都市

順位	前年順位	前々年順位	都市	国・地域	当該都市が QS 大学ランキング 2026 にて最上位校（数字は同ランキングの順位）
1	3	3	ソウル	韓国	ソウル大学（＝38）
2	2	2	東京	日本	東京大学（＝36）
3	1	1	ロンドン	英国	インペリアル・カレッジ・ロンドン（2）
4	4	5	ミュンヘン	ドイツ	ミュンヘン工科大学（＝22
5	5	4	メルボルン	オーストラリア	メルボルン大学（19）
6	6	7	シドニー	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学（20）
＝7	9	8	ベルリン	ドイツ	ベルリン自由大学（＝88）
＝7	7	6	パリ	フランス	PSL 研究大学（28）
9	8	＝8	チューリッヒ	スイス	スイス連邦工科大学チューリッヒ校（７）
10	14	12	ウイーン	オーストリア	ウイーン大学（152）
11	15	15	シンガポール	シンガポール	シンガポール国立大学（８）
12	23	=24	クアラルンプール	マレーシア	マラヤ大学（＝58）
13	31	37	北京	中国	北京大学（14）
14	26	33	台北	台湾	国立台湾大学（＝63）
＝15	16	10	ボストン	米国	マサチューセッツ工科大学（１）
＝15	13	16	エディンバラ	英国	エディンバラ大学（34）
17	22	21	香港	香港	香港大学（11）
＝18	＊	＊	京都	日本	京都大学（57）
＝18	10	13	モントリオール	カナダ	マギル大学（27）
20	＝20	＝24	アムステルダム	オランダ	アムステルダム大学（53）
21	17	19	ローザンヌ	スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ校（22）
22	11	11	トロント	カナダ	トロント大学（29）
23	18	17	ニューヨーク	米国	コロンビア大学（＝38）
24	＝20	＝22	ストックホルム	スウェーデン	スウェーデン王立工科大学（78）
25	24	29	オークランド	ニュージーランド	オークランド大学（65）
26	25	＝22	ブリスベーン	オーストラリア	クイーンズランド大学（＝42）
27	46	48	上海	中国	復旦大学（30）
28	34	＝27	マドリード	スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学（＝187）

＝29	40	＝39	プラハ	チェコ	カレル大学（＝265）
＝29	19	18	バンクーバー	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学（40）
31	28	26	アデレード	オーストラリア	アデレード大学（＝82）
32	42	＝34	ブエノスアイレス	アルゼンチン	ブエノスアイレス大学（84）
33	36	＝39	ルーベン	ベルギー	ルーベン・カトリック大学（＝60）
34	＝37	43	コペンハーゲン	デンマーク	コペンハーゲン大学（101）
＝35	41	38	バルセロナ	スペイン	バルセロナ大学（160）
＝35	33	36	グラスゴー	英国	グラスゴー大学（79）
37	35	＝34	パース	オーストラリア	ウェスタン・オーストラリア大学（77）
＝38	＝29	＝30	キャンベラ	オーストラリア	オーストラリア国立大学（＝32）
＝38	32	32	ダブリン	アイルランド	トリニティ・カレッジ・ダブリン（75）
40	27	＝30	マンチェスター	英国	マンチェスター大学（35）
＝41	39	=39	ニューカッスル・アポン・タイン	英国	ダラム大学（＝94）
＝41	＝29	20	サンフランシスコ	米国	スタンフォード大学（3）
43	＝37	＝27	ロサンゼルス	米国	カリフォルニア工科大学（10）
44	52	53	ミラノ	イタリア	ミラノ工科大学（＝98）
45	43	＝44	コベントリー	英国	ウォーリック大学（74）
46	54	56	ローマ	イタリア	ローマ・サピエンツァ大学（128
＝47	45	＝44	ブリストル	英国	ブリストル大学（51）
＝47	44	＝39	シカゴ	米国	シカゴ大学（13）
49	51	52	ノッティンガム	英国	ノッティンガム大学（97）
50	50	47	サンティアゴ	チリ	チリ・カトリック大学（＝116）

（QS Best Student Cities 2026、QS Best Student Cities 2025、QS Best Student Cities 2024、QS World University Rankings 2026 から作成：＝は同順位の存在を示す。京都は前回まで京都・大坂・神戸を一地区として評価されていたため前回までの京都だけの順位はない）

目立つアジア都市の順位上昇

今回のランキングで目を引くのは、1 位ソウル、2 位東京の高評価に加え、順位を上げたアジアの都市の多さだ。シンガポール 11 位（前年 15 位）、クアラルンプール 12 位（同 23 位）、北京 13 位（同 31 位）、台北 14 位（同 26 位）、香港 17 位（同 22 位）、京都 18 位

と上位 20 位内が前年の 3 都市より 8 都市と倍以上増えただけでなく、ほとんどが順位を上げている。アジアの大学に対する評価の高まりは近年、顕著で今年 6 月に公表された「QS 世界大学ランキング 2026」でも、上位 200 位内に入ったアジア地域の大学は前年より 2 校、前々年より 4 校増えて 43 校となり、このうち 27 校が前年より順位を上げた、といった結果が示されている。大学だけでなく、大学のある都市も留学生にとって魅力ある都市となっている現状が、今回の「QS ベスト・スチューデント・シティ 2026」で示された、と言えそうだ。

ソウル、東京に次ぐ 11 位のシンガポールには、「QS 世界大学ランキング 2026」8 位のシンガポール国立大学、同 12 位の南洋理工大学という有力大学が並び立つ。12 位のクアラルンプールもマラヤ大学（「QS 世界大学ランキング 2026」58 位）、マレーシア国民大学（同 126 位）をはじめとする近年、評価を上げている大学が多い。13 位の北京は北京大学（同 14 位）、清華大学（同 17 位）をはじめ 19 の大学が名を連ねる。このほか 14 位の台北は国立台湾大学（同 63 位）、17 位の香港は香港大学（同 11 位）、香港中文大学（同 32 位）、香港科技大学（同 44 位）、香港理工大学（54 位）、香港城市大学（63 位）、18 位の京都は、京都大学（同 57 位）、27 位の上海は復旦大学（同 30 位）、上海交通大学（同 47 位）などそれぞれ「QS 世界大学ランキング 2026」で上位にランク付けされた大学を持つ。

日韓、少数大都市に大学偏在

もうひとつ目を引くのが、ソウル、東京と 1、2 位を占めた韓国と日本でランク入りした都市の少なさだ。日本は東京、京都以外は 62 位の大阪と 111 位の名古屋のみ。韓国もソウル以外は 117 位の釜山、131 位の大邱だけだ。ランク入りした 150 都市のうちに、中国本土は 15 都市、台湾は 5 都市、インドネシア、インド各 5 都市が入っているのを見ると、アジア地域を見ただけでも少数の都市に有力大学が集中している日本と韓国の特異さがよくわかる。

留学生の期待と現状にずれも

海外からの留学生受け入れについては日本政府の関心も高い。大学・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）・日本語教育機関に在籍する外国人留学生数を 2020 年までに 30 万人にするという「留学生 30 万人計画」がすでに 2008 年に策定されている。目標年より１年早い 2019 年５月時点で 31 万人に達したという報告書も 2021 年３年に公表されている。

ただし、大学学部・大学院の外国人留学生数に限ると、日本学生支援機構が一昨年３月に公表した「2022 年度外国人留学生在籍状況調査結果」は 2022 年 5 月 1 日時 点で 12 万 5,169 人という数字を示している。留学生の主要な受け入れ先となっているのは国立大学

だが、2020 年までに国立大学の大学院、学部を合わせた外国人留学生比率を 10%まで増やすという目標を国立大学協会が 12 年前に定めている。しかし、2023 年 11 月 1 日時点の国立大学の大学院、学部の外国人留学生数は 計 4 万 7,150 人で全大学院・学部生の 7.9%にとどまるという報告書を同協会は昨年３月に公表している。

一方、こうした経緯からみるとやや意外とも思われる文部科学省科学技術・学術政策研究所の調査結果「令和５年度博士（後期）課程 1 年次における進路意識と経済状況に関する調査」が昨年 6 月に公表されている。日本の大学の博士課程 1 年次に在籍する外国人留学生の 45%が、留学に際して日本以外の選択肢をほとんど考えなかった。「日本以外の国への留学を比較検討したが、日本への留学が第一希望であった」の 48%を加えると、90%以上になることから、「2024 年時点で日本の博士課程への留学生の大半は、積極的に日本留学を選択していることが示された」との見方を同研究所の調査担当者は示していた。この調査結果は「33%が博士課程修了後も長期的に日本に滞在したいと考えている」という数値も明らかにしている。

日文　小岩井忠道（科学記者）

関連サイト

QS Best Student Cities Rankings 2026 | Top Universities

QS Best Student Cities 2025 | Top Universities

QS Best Student Cities Rankings 2024 | Top Universities

QS World University Rankings 2026: Top Global Universities | Top Universities

関連記事

2025 年 07 月 01 日サイエンスポータルチャイナ【25-06】順位向上目立つアジア勢　QS 世界大学ランキング　| Science Portal China

2024 年 07 月 08 日 客观日本 日本文科省研究所调查：33%的外国博士留学生希望长期留在日本

2024 年 07 月 01 日 客观日本 全球适宜留学城市排名：伦敦第一，东京第二

2024 年 06 月 11 日 客观日本 QS 最新世界大学排名，日本的大学排名继续下滑，东京大学排到第 32 位

2024 年 05 月 13 日 客观日本 THE 发布 2024 亚洲大学排名，日本大学的排名普遍提升

2024 年 03 月 19 日 客观日本 日本国立大学增加留学生人数和外籍教师比例的目标均未能完成

2024 年 02 月 20 日 客观日本 THE 公布 2023 年世界大学声誉排名 :东京大学位居第 10，日本有 10 所大学入围前 200

2024 年 02 月 01 日 客观日本 THE 公布全球国际化大学排名，日本高校排名全面下滑

2023 年 07 月 07 日 客观日本 QS 世界大学排名 2024：亚洲大学的跃进势头告一段落？